

事前にいただいたご質問と回答

※下記の回答は、岡本・岡田・平林の個人としての見解であることをご承知おきください。

【内容】

会計士受験全般・教材について

その他（メンタル面、休息の取り方）

初学者の方からのご質問

会計士受験全般

【Q.1】受験されていた時、どのような1日のサイクルでしたか？

また、大学がある時、時間を割くのが大変なのですが、どうすればいいですか？



〔岡本〕大学生時代は、まともに TAC での会計士試験勉強に取り組んでいなかったというのが実際のところであり、ほぼ大学の授業、友人との遊び、アルバイト、サークル活動に明け暮れ、気が向いたら TAC 梅田校に通うという、どうしようもない状況でした。

短答式試験に不合格となり、改心してからは、朝7時に家を出て、財務会計論や監査論の定義をウォークマンで聴きながら通学、8時に校舎に着き、午前中は計算科目の学習、20分の昼食、20分の昼寝を挟んで校舎が21時に締まるまで理論科目の学習をし、またウォークマンを聞きながら帰宅するという修行僧のような生活を送っていました。それまでの怠惰な生活を徹底的に改め、どうしても合格したいと強く思ったための生活でしたが、これは極端であり、ここまでやらなくても大丈夫です。気持ちの持ちようです。

大学がある日でも、隙間時間を有効活用する意識を持ちましょう。たとえば15分あれば理論科目のテキストは割と読めるでしょう。隙間時間は理論科目の暗記がよいと思います。

〔岡田〕私は脱サラ組で、専念でスタートしました。当時は年一度の短答で1年目は短答で不合格となったため2年勉強しましたが、1年目は食事と睡眠以外の時間は基本的にすべて勉強に充てていました。2年目に差し掛かり体に無理がかかり体の調子が良くない日が続いたため、運動を取り入れ適当に休むようにしました（とはいえ、平均して8時間程度は勉強していました。）。

[平林補足]大学と両立されている方は、大学の時間割と同様の扱いで、TAC の自習・講義を時間割として入れている方が多いです。大学の課題は何時までと決めて、何時になったら必ず TAC 校舎に行くもしくは講義を見るなど決めている方だと、比較的スムーズに行きます。優先順位として、財務計算をまず仕上げるという事を意識しましょう。若手講師や、チューターさんに聞くのもよいと思います。

なお、私は大学生時代、両立がうまくいかず、講義を受け切れないまま当初の目標年度が終わりました。一つの失敗談として、以下長いですが、参考にしてください(同じ状況の方もいらっしゃると思います)。

大学卒業年度の春、DVD 通信で申込▶卒論の忙しさから、TAC からの段ボールを開けずにいることが多くなる(簿記 2 級まで大学の講義&独学で既に取りっていたという慢心もあった)▶秋口から段ボールの届くペースが突然早くなる▶卒業と同時に、大学院進学のような気持ちで、溜まった DVD を見始める(まだ基礎マスター I 冒頭、管理は簿記 2 級レベル)▶手当たり次第 2 倍速で受け続ける(トレーニング・ミニテストの重要性も聞き流した。理論は楽なので企業法を先に受け進めた)▶疲労や家事などでしばらくやらず▶働き出した友人の SNS を見て、危機感を感じ、また倍速で連続受講▶届き続ける膨大な DVD の量(久しぶりに開けたら論文答練)に途方に暮れ、進まなくなる▶企業法の基礎マスターしか講義は終わっていないが、短答式試験を受けに行き、一日中座っている試し受験を 2 回経験(5 月、12 月。目標年度最終回の 2011 年 5 月は、受験せず)▶体を壊し、3 年休養 ▶その後、勉強再開(職歴なし)、通学コースで申し込み(入門)▶往復 2 時間かけて新宿校に通う▶質問・相談を利用し、合格(たまたま担当講師が挫折した際の収録担当の方で、先生の言っている内容がわかる、反復したらトレーニングがちゃんと解ける!という前に進んでいる実感がようやく持てて、モチベーションになりました。)

本当に、今思うと、早く相談すればよかったです。

質問者の方はまだ大学生とのことですので、講師・チューターさんにも相談しながら進めましょう。睡眠を削らず、体に気を付けて、頑張ってください。

Cf.仮に今、目標年度が終わった 2011 年当時の自分と同じ状況の方にアドバイスをするとしたら、以下のとおりです。

- まず就職相談の相澤さんや関西就職相談の上田さん達に、大学卒業済みの自分(20 台半ば)にどのような選択肢があるか、相談。
- その上で、受験を続ける場合は、とにかく 6 月は財務計算のトレーニング/テキストと管理の復習をする。未受講の短答科目の上級講義は、8 月末までに 22 目標で受講(もしくは、6月から W チャンス本科生を申込み、23 目標上級の web 論点別講義)。
- アクセスを進めつつ、計算を強くする。
- 科目の先生と相談しつつ、web 論点別講義・7月から短答対策講義を受講(必要な力に応じて)。計算の苦手意識がなくなってきたら、理論科目のテキストの重要な内容が説明できるように(財務理論…章扉「word」それぞれの意味、監査論も同様、企業法は太枠の規定のざっくりの趣旨)。
- 校舎に通える距離であれば、通学にして、7月以降のアクセス・答練のカリキュラムに食らいついていく。質問利用。

【Q.2】通信生のため、他の受験生がどのように勉強しているのか、どんな情報交換をしているのかがわからず自分だけが取り残されている気がして不安に感じます。特に講義を消化してしまってから日々の学習の進捗管理、学習計画もうまくできず、前に進んでいる手応えが得られなくなっていました。

zoom での質問や学習相談をあまり活用できていないのですが、他の受講生の方はどのように(頻度や内容)活用されているのでしょうか。初対面の講師の方に相談するのが気後れしてしまいます。



[岡田] 公認会計士になる以上、コミュニケーションは避けては通れません。講師は優しい方ばかりですから、遠慮なく質問にきてください。出来ていないことを指摘されることから逃げず、一緒に頑張りましょう。印象としては、よく質問に来てくれる受講生ほど早くに合格すると感じています(常に自分のポジションを客観視し、適宜軌道修正しているからだと思います。)

[岡本] 公認会計士試験は、「自身との闘い」の側面があり、それは孤独との闘いでもあります。特に通信生の場合は、普段から講師や受験仲間や周りにいないことが多く、孤独を感じることも多いと思います。

これは、人として当然の感情であり、そのような状況をフォローするために、TAC では、ZOOM相談やスクーリングという制度があります。校舎での質問も可能です。多くの通信生の方がこれらの制度を活用されており、質問者さんもぜひ積極的に活用してください。

ZOOM質問コーナーで待っている対応している講師は、質問者さんの境遇のような方の力になりたいと願っているわけですので、初対面であろうと気後れする必要など、まったくありません。私はZOOM相談に出ませんが、校舎で質問待機している際、受講生が質問や相談に来てくれることが喜びであり、疑問や不安を解消することがやりがいです。初対面の方が来てくれた場合、「また新たな出会いだ」と意気込んで相談に乗っています。そのような講師ばかりですので、心配は不要です。

「監査」(Audit)の語源は「Audio」と同じであり、すなわち「聞く」がベースにあります。

未来の職業的監査人として、ぜひその最初の一步を踏み出してください！

[平林補足]質問コーナーは、教材の内容面だけでなく、進捗相談、理解度の確認として利用されている方も多いです。Ex.「こう言う理解で合っていますか。」「口頭で説明するので、この章から問題を出してください。」講師は、ほぼ毎日、初対面の受講生さんと話しており慣れていますので、気楽に是非いらっしゃってください。

頻度について

理解確認等は週何回でも大丈夫です。進捗の相談については、ある程度時間をおいた方が、全体感・推移を把握できます。答練の4週間前、2週間前、答練・分析後・成績反映後などのタイミングで利用される方が多いです。

Ex.答練直後・・・難易度 A・難易度 B の獲得状況等と、自分なりに分析した取れなかった原因(インプット・メンテ・試験中の行動等)▶弱点克服のために、やろうとしていることの方向性が合っているか確かめる

【Q.3】受験仲間は作った方が良いですか。現在は一人で勉強中です。



[岡本] 受験仲間は作った方が良く考えています。多ければ多いほど良いというのではなく、「真剣に勉強している」受験生と、お互いを高められる仲間になりましょう。

次のようなメリットが期待できます。

- 同じ校舎で自習していても、「もう少しの時間頑張ろう」など、心が強くなる。
- 分からない箇所を教え合うことで効率的に学習できる。
- 「あの人に負けたくない」という切磋琢磨の意識を生み、実力向上が期待できる。
- 孤独感がなくなる。
- 昼食や休憩で会話することで、適度な息抜きができる。
- 将来の同業の友人となる可能性もある。

なお、岡本と岡田先生は元受験仲間であり、当時から意気投合していることが分かっていたため、今でも信頼関係をもって、TACでお互い受験指導を頑張ろうと思えるのです。)

[岡田] 同じ境遇にある方と勉強することで自分を客観視できるのと、仲間が勉強しているから自分も頑張れるため(逆もしかりです。)、できるだけ作った方がよいと思います。

[平林補足]

切磋琢磨しあえるライバルがいると(直接話すことがなくても)、頑張れると言う人は比較的多いです。ただし、最近はコロナ禍で自宅での勉強をすることが多くなっており、なかなか直接会えるという機会は少ないようです。

勉強仲間が欲しいという方向けに、TAC では、今後オンラインの交流会や、状況を見て、対面での交流が図れるような機会を考えています。以下、一例です。

6/5(日)15 時- @TAC 早稲田校 短答リスタートセミナー・相談会

6/7(火)19 時- @TAC 新宿校 短答リスタートセミナー・相談会

6/14(火)19 時- オンライン交流会(仮)

6/18(土)19 時- @TAC 梅田校 短答リスタートセミナー・相談会他

6/27(月)10 時-17 時 簿記スタンプラリー(基礎マスター1~4までのミニテストを解き、詰まったら講師に質問)

他方、知り合いがいると他の人の進捗がどうしても気になってしまい、自分の学習に集中できない、自分の性格上馴れ合ってしまうようで怖い、という方もいらっしゃいます。(情熱タイマー・スタディプラスの学習時間が気になるなど)。

その場合には、ぜひ、合格者である TAC 講師やチューターを、受験仲間としてください。

会計士試験は出題傾向等刻々と状況が変化しており、1 人だけで学習を進めるのは危険です(答練パックではなく本科生を勧めるのも、この理由が大きいです)。受験生の友人はいないけれども、毎日いろんな先生・チューターと話して、自分の理解度チェックを行い刺激を受けている、と言う受講生さんも多いです。

講師は、教育・カリキュラムに遅れた際の医者のような役割だけでなく、厳しい受験生活を進める上でのよき「友人」という面もあります。

余談ですが、最近 Twitter で、TAC のテキストを使って問題を出し合う自主ゼミ類似の呼びかけがあり、基礎に立ち戻る姿勢に感銘を受けました。校舎で既に実施している論文生も多いようです。基礎を大事に拙作琢磨する動きが、受験業界全体で広がっていくことを願っています(p.s. もし twitter スペースで実施する場合は、私もこっそりお邪魔させていただきたいです)。

教材について

【Q.4】仙台校で受講している既卒専念生です。6 月中に勉強を行う教材の選択について質問です。

今回 23 目標上級 W チャンス本科生(今回は 2021 年目標を受講)として申し込みましたが、短答対策講義やアクセス答練が 7 月からスタートとのことで約 1 カ月の隙間ができました。そこで、この 1 カ月は 5 月短答を受験して明確になった苦手論点等は Web 論点別講義や 23 年目標のテキストを利用して勉強しようと考えています。

その中で計算は手を動かして解きたいと考えており、苦手な論点は新しいテキストの例題やトレーニングを使い、得意な論点については難易度が欲しいです。

そこで、21 年目標時に使っていた短答用の教材(アクセス答練等)を使いたいと考えておりますが、この選択は良いでしょうか。



[岡本] 2023 年目標のアクセス答練が始まるまでの期間、得意分野の計算力を維持、向上させるために、2021 年目標のアクセス答練(財務・管理ともに)を活用していただくことには、大きな問題はありません。ただし、得意分野と思っている分野も、本当に得意なのか、はよく自問自答してください。

その範囲のテキストの内容は、スラスラと受験仲間に説明できるレベルの理解、暗記はできていますか？ その範囲のトレーニングはスラスラ解けますか？ 本日のセミナーでもお伝えしたとおり、自身の実力を客観的に把握し、素直に、謙虚に基礎を積み上げる気持ちを忘れずに学習してください。

【Q.5】私は論文三振後に今年の短答にチャレンジして、二回とも失敗しました。12月向けに学習を進めていきたいのですが、どこから手を付けていいでしょうか。短答対策講義を受講するようお勧めされたのですが、テキストは23目標のものが必要でしょうか？



〔岡田〕監査論について、できるだけ早めに23目標のものを使用してください。是非対面で全ての科目の講師とチューターに相談をお願いします。勉強方法の何かが間違っている可能性がありますので是非このタイミングで見直ししましょう。監査論は短答対策講義で過去問解説&テキストチェックを行いますので、是非受講してください。

〔岡本〕12月での巻き返しに向け、どこから手を付けるべきかは、「計算科目（財務・管理）の習熟度はどれほどか」によります。なぜなら、計算科目を、短答合格レベル・論文合格レベルに引き上げるには、相当の時間が必要だからです。

今回の短答で、財務・管理でTACが受験生に期待する得点をゆうに超える得点をとれているのであれば、短答アクセスをベースに実力をメンテナンスしていけばよいですが、下回っているのであれば、もしかすると基礎マスターレベルからの再度のインプットが必要なかもしれません。その場合は、短答対策講義を受講し、Web論点別対策講義と「トレーニング」のやり直しで苦手を徹底克服しましょう。校舎やZOOMでの個別相談をお勧めします。

短答対策講義で23年目標テキストは受け取れます。基本的には新しいテキストを使用すべきですが、一般論として、管理会計論は過去のものであっても弊害は少ないと思います。

[平林補足] 監査論は必ず変えましょう。また、財務理論は、書き込みが多すぎて印刷されている字が読めなくなっている人も多いため、網羅的に復習するついでに、論文向けのすっきりしたテキストを作るイメージで 1 周テキスト更新を進めることをおすすめしています。わかったつもりでいたページも、かなり発見があるはずです。

★写すもの(網羅的な復習も目的)

短答・論文の重要性(これは覚える!など)

講義中のマーカー(Web 論点別講義で今年はマーカー指示も実施)

今見ても重要だと思える書き込みだけ、書く。

※22 目標短答答練・論文答練の書き込み等は写さない。23 目標の最新版で実施。

財理・監査以外の他の科目(財務計算・企業法・管理)は、すっきりした紙面にしたい・新しい解説の方が使いやすい・心機一転新しいテキストで復習をしたいと思ったら変える(財務計算のテキスト 8 だけ、など)というのが目安です。

租税法と経営理論(テキスト3・4)については、改正が考えられますので、おそらく 12 月以降更新することになります(23 目標租税法テキスト①は配付済み。経営ファイナンスについては変えない)。

社会人でどうしても時間がない人は監査論だけ更新(もしくは+財務理論テキスト)でもよいでしょう。ちなみに、特に財務計算については、毎年関東簿記講師チームの合議(こんな質問を受ける、など)で、テキストの解説を刷新しています。

【Q.6】こんばんは!TAC2022 年目標でしたが、5 月短答の結果を受けて、TAC2023 年目標に再び申し込みをしました。正直、去年の 3 大予備校の合格者数の比較を見て、TAC を継続するか悩んでいましたが、教科書の精度の高さを受験開始当時から実感していて、それが決め手となり、TAC に再び申し込みました。

しかし、不安要素が完全にはありません。やはり、その不安は他の予備校の合格者数の多さから生まれてしまっています。

ここで先生方に質問なのですが、短答、論文試験共に、他の予備校の教材には載っていて、TAC の教材には載っていないところで差がついてしまうのではないかなと思ってしまっているのですが、この点については TAC を信じて大丈夫でしょうか？

また論文試験では、論文試験受験者の大半が他の予備校の生徒で、少数が TAC の予備校の生徒だった場合、試験委員が多数派の回答と少数派(TAC)の回答を比較した際、見劣りしない質と量の回答を作ることは、TAC にいても当然に可能と考えても大丈夫でしょうか？



[岡本] 自信を持ってお答えします。「TACで大丈夫。信じて頑張ってください!」

どの科目であっても、短答・論文ともに、合否を分けたり、点差となったりするのは「TACの教材に載っていない箇所」ではなく、「合格するレベルの受験生であれば、当然に理解・暗記しているべき内容を理解・暗記しているか」という点、ただ一点、それに尽きます。

そして、そのような内容については、すべてTACの教材に記載されています。出題可能性が高い箇所を繰り返し、重点的に学習できるため、合格可能性を高められるのです。

安心して、TACの教材のみを使用し、マスターすることに全力を注いでください。

「勉強範囲を絞って効率的に学習してもらうために専門学校があり、点数がとれるようにするために講師がいる」のです。TACのテキストや答練は、多くの専門書、権威ある文献、最新の著書や論文を素材として、専門チームが「合議で」作成したものであり、業界最高峰の品質です。安心して、理解・暗記に努めてください。

また、「見劣りする答案」は、与えられた教材に対する理解のレベル、暗記の精度が低いことから生まれます。

TAC の教材は、各科目チーム間の調整により、科目間のバランスにも配慮した適切な量に抑えています。理解・精度の高い暗記を行いましょう。

[岡田]はい、TAC の教材で合格できます。たくさんの量の教材を提供することがよいこととは思いません。そもそも、TAC のテキストに載っていないことが試験で問われて合否に関わる可能性は、極めて低いです。論文でいえば、偏差値 52 の答案が素点で何点をご存知でしょうか。多くの受験生が解答する基礎的な問題について正答することで、合格できます。

今回のセミナーでお伝えしたとおり、基礎をおろそかにしない・わかった気にならず、是非、TAC の1冊のテキストに記載されている基礎的な事項の徹底的な理解・暗記に、今後も向き合っていただきたいです。一緒に頑張りましょう。

[平林補足]はい、TAC の教材だけで大丈夫です。会計士として備えるべき学識・思考力等が身につけられる教材として、質が良いのはもちろんとして、理解・暗記の上で過不足のない適切な量であることが、TAC の強みの一つと感じています。皆さんも本試験で感じたと思いますが、あやふや・断片的な知識は、かえって、試験当日の正誤判断・答案作成をする上で有害となることが多いです。

なお、どのスクールでも合格は可能ですが、複数予備校の教材に少しずつ手を付けると、理解・知識が散漫となり、おさえられないと言う結果になりがちです(この点、大学受験とは異なります)。上級生だからこそ陥りがちです。ご注意ください。

TAC の教材について、使い方や使用する目的を誤ると、なかなか結果が出にくくなります(問題集だけを回転する、テキスト読みだけでアウトプット練習を積まないなど)。また、直前期のピーク合わせ・メンタル面なども試験の合否に関わってきます。時期ごとに行っている本科生向けオンラインセミナー等や、講師への相談・フィードバックを通して、ぜひ TAC の教材を徹底的に活用いただき、来年の論文総合合格へ向けてまっすぐに進んでいただきたいです。

【Q.7】テキストが大事とよく言われるのですが、どのように読み込めば頭に入りやすいですか？



〔岡本〕テキストに記載されている内容は様々ですが、仕訳の意味（財計）や、会計学的な考え方（財理）、工場や会社における具体例（管理）、監査の局面（監査論）、条文や制度の趣旨（企業法）を、徹底的にイメージし、納得しましょう（腹落ちさせる）。

わからなければ講師に質問です。そして、納得した後はすぐに暗記に入ります。

その際、書いて覚えるよりも、「しゃべって覚える」のが一番効果的であり、また効率的です。

受験仲間が隣にいる状況を想像して、その人を納得させられるように説明できるか？という視点を持って、テキストの記載内容を口頭で（独り言で）説明してみてください。

それができれば、「頭に入った」ということであり、「試験で点数がとれる」という状況です。

〔岡田〕監査論でいえば、できるだけ早くに全体像を掴むことが重要です。最初はざっくりとした理解で結構です。その後は、テキストの各頁や論点別に「要するに」「まとめると」「簡単に一言でいう」ご自身の理解を自分の言葉で要約して言葉に出す勉強が効果的だと考えています。あとは友人や勉強仲間とお互いの理解を言い合う、確認し合う勉強も効果が高いと思います。また、「なぜこのような規定があるのだろうか」を考えながら読むことも記憶に残りやすいです。さらに、テキストの論点のつながりを意識して横断的に読むことでも定着度が高まると思います。

【Q.8】企業法が特に苦手で、前回の短答も今回の短答も特に企業法に足を引っ張られ落ちました。次の短答まで時間がある今の時間は主に計算の底上げに注力すべきかと思いますが、いかがでしょうか。



[岡本]いま何を重点的に勉強すべきかは、「計算科目(財務・管理)の習熟度はどれほどか」によります。なぜなら、計算科目を、短答合格レベル・論文合格レベルに引き上げるには、相当の時間が必要だからです。

今回の短答で、財務・管理で TAC が受験生に期待する得点をゆうに超える得点をとれているのであれば、7月半ば以降の短答アクセスをベースに実力をメンテナンスしていけばよいですが、下回っているのであれば、もしかすると6月に基礎マスターレベルからの再度のインプットが必要なかもしれません。その場合は、Web 論点別対策講義や短答対策講義を受講し、「トレーニング」「テキスト」復習のやり直して苦手を徹底克服しましょう。どこまでやり直すかは、校舎やZOOMでの質問・相談をお勧めします。

そのうえで、企業法の苦手を克服するためには、7月以降短答対策講義と Web 論点別対策講義で、基礎からたたき直すことが、最適解だと考えます。

【Q.11】理論に不安を抱えている場合、理論系科目はどのくらいの割合で取り組むべきでしょうか。なお、計算部分は難易度 A を取り切りましたが難易度 B は半分くらい取っている状態で、計算についても伸ばす必要があると考えています。



[岡本]ご質問の状況から推察するに、計算力は短答式試験を突破できるだけの実力はあると思います。今夏はぜひ短答対策講義を受講し、**計算力の維持と論文式試験でも通用する計算力の開拓**を目指してほしいと思います。

理論科目に不安があるとのことですので、質問者の場合、ざっくりで言うと、まずは勉強時間の 7 割程度を理論科目の勉強に充ててもよいと思います。

テキストに立ち返り、会計学的な考え方(財理)、工場や会社における具体例(管理)、監査の局面(監査論)、条文や制度の趣旨(企業法)を、徹底的にイメージし、納得しましょう(腹落ちさせる)。そして、納得した後はすぐに暗記に入りましょう。

短答対策講義とWeb論点別対策講義をうまく活用してください。

[岡田] 計算にそこまで不安がないのであれば、財務理論、管理理論を優先して理論科目に取り組むことで、相乗効果が高まると思います。短答監査論については、短答対策講義などで過去問を用いて、テキストに戻って反映し、最終的には直前期にテキストを数回通読できる時間を確保したいです。

【Q.9】中々テキストの内容が頭に入って来ず、模試や答練は過去の経験でそれなりに点数が取れていても、本試験で基本論点の失点が増えてしまう状態がここ2回の短答式試験で続いています。万全な基礎固めを行いたいのですが、本試験で初見の問題への対応力を付けるには、短答対策講座に加えて、どのように自習を進めていけばよいのでしょうか？



[岡本] 「短答対策講義に加えて」というよりも、まずは、ご自身の本試験結果分析を行うことと、各科目の短答対策講義で指示されることを素直にすべてやり切ることを心掛けてください。

同講座の担当講師は、質問者さんのような状況の方を救いたく、知恵を絞って、全力で導こうとしていますので、ぜひその指導に乗かってほしいと思います。

上記を大前提として、初見問題への対応力については、たとえば管理会計論であれば、

「この問題は、〇〇の論点の問題で、その論点のキーワードは●●で、解答の際の着眼点は△△だ!」とイメージできるようにする自身の力を磨くことです。具体的な磨き方は、本日のセミナーで解説したとおりです。

[岡田] 論点ではなく「問題」を押さえてしまっていないでしょうか。本当に基礎的な内容を完璧に理解できているでしょうか。基礎的な失点が増えている根本的な原因がどこにあると考えられるでしょうか。なぜ、初見の問題ができないか、その原因分析はされていますか。是非、まずは自問自答してほしいです。ご認識のとおり、初見力を高めるのであれば、徹底的に基礎力を養うほかありません。まずは、徹底的に自問自答してください。また、初見力が養われているかどうかの確認には、短答対策講義を通じて本試験の過去問を定期的に解くことも一つです。

[平林補足]テキストの内容が頭に入っていないと言う事は、基礎的な用語や概念が理解できていないと言う状況だと思います。例えば財務理論の章扉ワード一覧を見て、意味内容がイメージ・説明できるでしょうか。倍速でも良いのでインプット対策講義(Web 論点別講義や短答対策講義)を受け直す必要があるかもしれません。もしくは質問で、理解の確認などを行ってください。

また、初見時の問題の対応力については、直前期、解き慣れた問題だけを解いていなかったか?確認しましょう。また、財務計算で初見の問題の文章が読み取れず解けない場合には、財務理論と計算が紐付いていない可能性が高いです。計算の復習時、いつも一緒に財務理論テキストを置いておくようにしましょう。

【Q.10】日々の学習計画の立て方、進捗管理方法について、事例をご紹介いただきたいです。答練関係の整理方法(ファイリングや仕分け方)や、振り返り時の活用方法を知りたいです。未消化の答練が多々あり、活用しきれいていません。



[岡本]2022 年目標で未消化だった答練は、2023 年目標に向けては不要となります。2023 年向けの答練をやりきる、反復することに注力してください。

学習計画の立て方や進捗管理の方法については、質問者さんの状況(学生、専念、社会人など)の状況や現在の学習の習熟度によって、最適解が違いますので、ぜひ校舎や ZOOM で相談し、講師と 2 人で一緒に作り上げてください。

管理会計論については、「まとめ解き」(ある論点について、半日~1 日がかかりで、例題集、トレーニング、実力テスト、パワーアップ、アクセス答練、論文答練から問題をかき集め、集中的に解く勉強法)を推奨しています。ただし、私は答練の裁断やファイリング等までは不要だと考えており、どの答練にどんな論点の問題が出た、と軽くメモしておく程度でよいとお考えしています。

[岡田]学習計画はカリキュラムどおりに授業、答練等を受けることを前提に組むのが基本です。また、進捗管理、忘却曲線対策として、学習範囲の全体を重要性とともに一枚のエクセルなどにまとめる方法なども有効か

と思います。自己学習の日、所要時間、(問題であれば)解法時間、正否などをまとめたもので、常に自分の学習のポジションを把握するための仕組みでご自身にあったものを考えてみてください。苦手分野の対策として、答練や過去問を分野別に整理して、集中的にその分野をやり込むというのも点数をあげて自信をつけるという意味で効果的だと思います。未消化のカリキュラムは早く解消しましょう。

【Q.11】今回 69.4%でした。23 年目標に変わり、勉強を継続して行きます。この場合、租税法と経営学はどのように対応すべきでしょうか。ある程度は勉強すべきなのか、12 月後に勉強を再スタートさせるべきなのか教えて頂きたいです。よろしくお願いします

[岡本]12 月の短答式試験後に、租税法と経営学を集中的に学習するのが、初学者に最も多いケースです。それで 2023 年の 8 月の論文式試験に十分に間に合いますので、12 月短答式試験合格を確実なものにするため、12 月までは、短答科目のみの学習に専念することをお勧めします。5 科目の学習に集中するわけですから、ぜひこの期間に、論文式試験で太刀打ちできるような実力をつけるべく、頑張ってください。単に短答式試験のみを意識した問題演習ではなく、テキストの読み込みで理解・暗記を徹底し、足腰を鍛えましょう。そのうえで、アクセス答練、短答答練で実力をいかに発揮してください。

「論文式試験の学習のプロセスで、短答式試験に対応できる力がついた」という状況を目指しましょう。

[岡田]12 月後で十分間に合うと思いますので、個人的には、短答科目で論文も稼げるほどに短答科目で圧倒するのがよいと考えます。

[平林補足]財務計算・管理について、点数・手応えはいかがでしたでしょうか。もしも計算について、テコ入れが必要なく、論文応用答練まで 3 月受けきっていたなどの場合でしたら、ご本人の希望にもよりますが、租税法の法人税①部分だけ又は所得税①まで受ける、6月末の論文模試まで受けるなどがあります(ex.今回の凹みが短答特有のアウトプットの面での不足であり、インプットや計算力は十分にあるため、7月以降のアウトプット対策で短答が合格レベルに行くという自信がある場合など)。

ただし、これは「財務計算が得意です!」と自信を持って言い切れる人だけへのアドバイスです。一般的には、

夏まで短答科目のテコ入れ(特に計算)が必要なことが多く、12月以降の開始とする方が多いです。

経営については、財務計算・管理が得意で、租税の基礎論点部分が既に終わっており、専念生で時間が余っており、やる気が起きない時間帯が多い、などでしたら、多少は進めることができますが、優先順位は低いです。短答科目・特に計算が優先です。

【Q.12】2022 合格目標本科通信生として学んできましたが、上級 W チャンスを申し込んで再スタートする場合、テキストは基本的には新しいものを使うべきでしょうか？管理会計と財務理論は先生の指示どおりのマーカーだけでとてもわかりやすい状態ですので丸写しすればよいと思います。

企業法と監査論は先生のマーカーと自分のマーカーが混在しており、本当は整理したいのですが、短答対策講義や論点別講義で指示されたところをマーカーしなおす方法でよいでしょうか。



〔岡田〕監査欄について、テキストは必ず新しいものを使用しましょう。個人的に授業受講中には、鉛筆又は消せるフリクションで基本的には講師に指示されたものだけマークすることをお勧めします。マーカーは構造の把握や、趣旨などの箇所の特定など目的に沿って行い、暗記箇所はご自身の学習の進度に合わせて行う方が後になってマーカーがありすぎて何がなんだか訳がわからない状態になるのを避けられると思います。

〔岡本〕各種本科生コース(答練パック生を除く)で23年目標テキストは受け取れます。基本的には新しいテキストを使用すべきですが、一般論として、管理会計論は過去のものであっても弊害は少ないと思います。それ以外の科目については、校舎や ZOOM 相談で各科目の先生に、再利用したいと考えている自分のテキストを見せたうえで、相談に乗ってもらいましょう！

【Q.13】全国模試の結果が非常によく 25 番以内でしたが今回はギリギリ 70%に届いておらずおそらく駄目だろうと思っています。模試の成績を見たときに A 判で 90%合格といった感じてましたが、自分の中ではまだまだ五分五分で戸惑いました。

一応、模試を勉強の指針、方向性が正しいのかの目安として勉強していて、判定も良いので間違った勉強はしてないとは思いますが、やはり本番では何かが足りないようです。自分は今後どのように勉強すればよいのでしょうか。ざっくりとしていて申し訳ないです。



【岡本】TAC の短答式全国公開模試で 25 位以内とは相当すごいです。マグレでとれるような順位ではないので、地力はあるのだと思いますよ。ここまで非常に努力されたのだと思います。その「努力できる才能」に、まずは自信を持ってください。

そのうえで、私なりに状況を推測してみると、模試がそのような好成績にもかかわらず、本番でギリギリ 70%に届いていない状況というのは、たとえば、本番で「守りに入ってしまった」のではないかと思います。企業法がそれなりに 70%前後とれていたと仮定した場合、全体成績で 70%弱ということは、管理会計論か財務会計論が、「実力からすると」やや低迷してしまったのではないのでしょうか。

結果論ですが、今回は、管理会計論は非常にやさしい回であり 75 点程度、財務会計論も実力者であれば 170 点程度はとれたと思います。管理会計論は理論 6 問、計算 2 問という保守的な目標を掲げて試験に挑んだかもしれませんが、計算がかなり、いや本当はかなり平易だったので、試験中に方針転換（計算で 5 問狙う!とか）が必要でした。

財務会計論も、自分の中で、勝手に目安点のようなものを作っていませんでしたか？それが、頭打ちの原因になってしまった可能性があります。

捲土重来を期すには、今後の答練では、事前に期待得点などは定めず、出題された問題に対して、その場でベストパフォーマンスを出す訓練をすることが重要になると思います。その方針で、答練で A 判定を連ねてください。きっと、自信满满で 12 月短答に挑めると思います。

【岡田】方向性として間違った学習はされていないと思います。しかし、本番で力を発揮しきれなかった、ということで、できるだけ記憶の新しいタイミングで先日の短答式試験の振返りを徹底的に行って科目別に講師に

相談に行ってください。当日の健康状態、緊張状態、時間運び、取捨選択など、何か必ず原因があるはずで
す。

[平林補足]A 判定の方で本試験がうまくいかない原因としては、主に以下のような原因が考えられます。

- 直前期にテキスト確認ができていなかった。→2週間以内テキスト1周。
- 直前期のバランス・ピーク合わせがうまくいかなかった。→直前期はバランスよく。
- 直前期に、解き慣れた問題だけを回しており、初見の問題に対する取り組み方、資料の読み取る際の目の動き、やらかしミス対策などの感覚が鈍った。→ごく簡単な問題で、初見時の練習。
- 計算問題で得点を稼ごうと言う気持ちが強すぎて、数字が合わない時に粘ってしまった。
「この論点は難しいはず」と言う先入観が強く働き、裏を読んでしまった。
- テキストではなく「問題集・答練の肢の表現」でおさえており、少し状況設定が異なると、その場で自分で考えられなかった。焦ったときに、テキストではなく、どこかで見た問題文の肢(断片的な知識)が頭をよぎり、最後の判断基準を誤ってしまった。→問題自体ではなく、論点・テキストをおさえる。
- いつもと違う雰囲気追われ、焦ってしまった。→メンタル安定のためにも、テキストを徹底的におさえる。短答対策講義などで、本試験だと思って過去問演習。焦った時のルーティーンを作る。

【Q.14】計算科目の定着が悪く、答練、試験で全く手が付けられませんでした。12月短答再スタートに向けてアドバイスをお願いします。



[岡本]財務会計論も管理会計論も、①テキストの内容の理解・暗記、②例題の徹底、③トレーニングの反復、④テキストへの回帰、という手順で学習していますか？

このどれが欠けても、計算科目が得意になることはありません。

逆に、これを辛抱して実践して継続すると、次第に得意になってきます。

ぜひ、短答対策講義を受講し、Web 論点別対策講義と「トレーニング」のやり直し、テキストへの回帰で苦

手を徹底克服しましょう。

そのうえで、7月半ば以降のアクセス答練で実践力を養ってください。

〔岡田〕反復して計算の練習を行っていますか。計算が定着している方は漏れなく反復して練習を行っています。カリキュラムをこなすことが目的となっていないでしょうか。とりあえずなんとなく解いていないでしょうか。徹底的に基礎に向き合って、理解ができていないか自問自答されていますか。計算から逃げてしまうと合格は遠ざかってしまいます。ご自身が胸をもって誰よりも計算の基礎力と向き合ったと言える状況にしてください。

【Q.15】12月短答目標の者です。基礎マスター期では勉強を怠ってしまい、財務や企業法関しては理解できてない論点すらあります。

12月短答に間に合うにはどのような勉強方が良いでしょう。例えば7月までには理解やトレーニングを完璧に仕上げるなど。



〔岡本〕TACのカリキュラムのなかでは、どの科目も基礎マスターが最も重要であり、その内容が十分に理解・暗記できていなければ、短答・論文での合格はできません。

まずは、各科目とも、本試験結果の分析・テキスト確認を行い、どの論点が理解できていないのかを、自身のなかで明確にしましょう。わからない場合、短答対策講義の視聴で洗い出しましょう。そして、面倒くさがらずに、質問、当該範囲のWeb論点別講義を視聴し、理解の穴を1つずつ埋めていってください。そのなかで、財務会計論や管理会計論の講師が「トレーニング」の重要性を説くと思いますので、それにしたがって、トレーニングを十分にやり込みましょう。

ペースとしては、7月末、遅くとも、お盆過ぎまでに、財務会計論と管理会計論のトレーニングをマスターするスケジュール感を意識されるとよいと思います。ただし、「マスター」ですので、1周でよいわけではなく、繰り返すことで、「マスター」してください。

[岡田]今の反省を活かして、勉強の量、質を確保しましょう。ひとまず勉強時間を他の方よりも確保しましょう。また、勉強は一つ一つの基礎の積み重ねです。基礎なくして、難しい問題が解けるはずはありません。また、一つ一つの自信の積み重ねが重要です。

まずは、計算について基礎的な問題を取りこぼさない計算力を身につけるのが先決かと思います。理論の本格的な学習はそれから始めましょう。

【Q.16】21年12月、22年5月短答式試験の企業法は、いずれも40点しか取れなかったです。企業法勉強方法をお教え頂ければ幸いです。



[平林]企業法については、テキストのうち、**太枠・図解・まとめの表**を大事にして復習をしましょう。

テキストに記載されている細かい文字を精読していると、後半の部分が苦手なままになることが多いです。まずは太枠・図解・ご自身のメモ書きを中心にテキストをざっくり1周、納得感を大事に、全体像を確認することをお勧めします。

その後に、基礎マスター時に実施していた、ミニテストを活用しましょう。ミニテストを解きながらテキストの太枠に戻り、この規定がこのように出るんだな、と頻出論点を知しましょう。

太枠の理解が定まらないうちに問題集を端から回すと、問題集の肢と断片的な解説で覚えてしまう可能性が高いです。理解度合いによっては、必要に応じて、Web 論点別講義・短答対策講義を用いて納得感を作りましょう（場合によっては、部分的に基礎マスター・上級講義を8月末までに受け直す）。

企業法については、zoomの質問コーナーに毎日企業の先生が3時間待機されています。ご本人の状況に応じて使う教材・意識すべきことも少し異なってきますので、ぜひ一度ご相談ください。

【Q.17】過年度生です。一度成績を上げることができた科目とそうでない科目とのバランスの取り方を間違えて、全部微妙になってしまいました。これから、バランスよく全科目を伸ばすためには何に気をつけるべきですか。



[岡本]お気づきのとおり、全科目について「バランスよく」実力を高めることが、短答・論文合格のためには必要です。今年度は、アクセス答練、短答答練での成績(全体のなかでの順位)にこだわってみてください。相対的な順位が低い科目が、ご自身が得意でない科目ということになりますから、その「伸びしろ」がある科目から学習時間を増やしてみましょう。苦手科目・苦手論点は、無意識に学習を避けがちですが、それを意識的に学習することによって、結果的に成績はバランスよく上がっていくと考えられます。

[岡田]答練や過去問の演習を通じて、他の受験生(過去問であれば過去の合格点)の得点比率・平均点・得点分野とご自身の成績とが乖離していないか、常に確認しながら、学習を進めてください。得意科目があることは悪いことではありませんが、苦手科目や不得意科目があるのは改めるべきです。苦手科目や不得意科目をまず優先的に解消し、その後得意科目(自信のある科目)は伸ばしていくことでバランスはよくなります。

[平林]点の取り方にこだわしましょう。データリサーチや毎回の答練で、正解状況診断表をご活用ください。

おそらく答練で、正解率 60%以上の問題に×が付いていたのではないかと思います。

60%以上全取りはもちろんのこととして、

40%から 60%も全て○をつけるためには何が必要だったか(テキストの暗記・理解、時間配分、やらかし対策等)を毎回貪欲に分析しましょう。

答練を受けた直後であれば、以下を意識しましょう。

- 難易度 A を全取りできたか
- 時間のかかる計算の難易度 B は一度飛ばせたか
- 理論の B は理解を応用して取り組めたか(テキスト関連ページを思い浮かべられたか)

インプットの強化と、アウトプット力の強化双方に取り組んでいきましょう。科目で何か困ったときには、質問メールや質問相談セミナー等での Q&A をぜひご活用ください。不足している力の特定・方針策定について、講師が協力します。

【Q.18】今回の短答は65%でダメでした。財務個別計算が原因です。いくつかの勉強方法を試したのですがダメで、アドバイスを頂きたいと思っております。通信で受講しているのですが講師又はチューターの方にアドバイスを頂くにはどうしたら良いのでしょうか。Zoom 個別相談の予約システムは満員でした。直接 DM をすれば良いのでしょうか、教えて頂きたいです。



[平林]セミナー後の相談や、オンライン予約システムでの予約が必要な個別相談の他に、毎日実施している【事前予約不要の校舎・zoom 質問コーナー】もご利用ください。

(web school 下段にリンクあり)

★zoom よりも、校舎の方が空いています。

>外部生の方

校舎質問コーナーでは、お申し込み前の受講相談も可能です。

【Q.18】財務の計算についてなのですが、5 月の試験を見ると難易度 A・B の問題の平均文量が増えているのと、A や B でも簡単な推定が入ったり、集計量が多かったり全体的に時間が掛かるようになっているように思います。

ボーダーが上がる予想はあったので最低でも 10 問程度は手を付け 8 問程度は正当しいといけなと感じたのでかなり焦って解いてしまいました。結果、簡単な問題も 2 問落としてしまったのと、問題の取捨選択の結果解かなかった問題のうち、2 問が難易度 A で正答出来たのが 4 問になってしまいました。模試では 7 割程度取れていたのに悔しかったです。

特に財務の個別問題の取捨選択や時間配分、取り組み方はどのように考えたら良いでしょうか、アドバイス頂きたいです。



[岡本]文面だけでは、質問者さんの財務会計論(計算)の実力は、計りかねるのですが、「計算強者」というイメージではないように感じます。普段のアクセス答練、短答答練の前に、基礎マスターの範囲の例題とトレー

ニングは「完璧」でしょうか？

解答を覚えるほど解いたのかもしれませんが、「なぜそのような解き方になるのか」を淀みなく説明できるレベルでしょうか？ そうでないなら、アクセス答練の開始までに、まずはそこまで計算力を徹底強化してみてください。昨年とは違った感覚で、アクセス答練も短答答練も受けられると思います。そうなってくれば、自然と、個別問題の取舍選択や時間配分にも余裕ができてくると思います。計算ミスも激減しますよ！

[平林]

文章量や表の形式で、難易度を判断していませんか。ぱっと見て判断してしまうと、簡単な問題を見逃しがちです。数十秒程度、問題文の資料を読み、回答のフローチャートがどのように分岐していくか、状況を把握しましょう。

難易度 A を難しく感じた場合、財務理論の知識・理解かもしれません。計算について問題のパターンのみで解法を暗記している場合、文章で説明を書かれた際に、面食らってしまうケースがあります。計算を復習したら、ついでに理論の該当章を確認すると力が伸びやすいです。

■その他（メンタル面、休息の取り方）

【Q.19】短答論文共に不合格が続きすぎてものすごく精神的に苦しいときに乗り越える方法があれば教えていただきたいです。



[岡田] 小さいことでもできなかったことができるようになる喜びを感じながら、毎日の勉強のなかで小さな達成感、小さな自信を積み重ねてほしいです。あと、個人的には健康な体作りに意識を向けてほしいです。合格をすれば、過去のことはすべて無駄ではなかった、と思えますし、合格をすれば不合格の過去はすぐにでも塗り替えられます。ただ、不合格が続いている事実から目を背けずに、なんとなく勉強していないか、なんとなく過去からの勉強方法に拘っていないか、真摯に、かつ謙虚にご自身の勉強方法に向き合ってほしいです。

[岡本] 一般的な気分転換（勉強をしない休日には趣味を楽しむとか、勉強漬けの毎日ではなく逆に週 2 日ほどアルバイトを入れてみるなど）のほか、私は、「合格後の自分を想像してみる」ことをお勧めします。

大手の監査法人、準大手の監査法人では現在でも人手不足の状況が深刻であり、リクルート活動に力を入れているという事情から、受験生向けに多くのイベントを開催しています。ご自宅から近い監査法人でイベントがあるのであればぜひ現地参加してみましょう。また、コロナ禍の事情でオンラインでのイベントの開催も多くありますので、これであれば全国どこの事務所のイベントも参加可能です。イベントに参加すれば、公認会計士の先輩、人生の先輩の話を聞いたり、直接話したりする機会があり、モチベーションが高まると思います。

ツイッター等で溢れかえっている「公認会計士」のイメージは、実務家の私から言えば、端っこも端っこ、極めて限定されたイメージで非常に残念で、情けないです。

公認会計士の業務を知らない、経験不足の人たちが書いていることなので、あの程度が公認会計士の世界だとは思わないでほしい。

もっともっと素晴らしい青い大海が、実務のフィールドには広がっており、自分の船を漕ぎ出すための港（監査法人）への道は、論文合格の向こうに開いています。

学習の合間に、そのような世界を見に行ってみるとよいと思います。

[平林]監査法人のイベントが、6 月中に多く行われます。ご自身の会計士になった姿を具体的にイメージできます。また、監査法人のスタッフ・パートナー等も苦しい受験勉強を乗り越えた先輩であり、応援団となってくることが多いです。5月短答後のイベントで、「この 1 年で必ず合格しよう」とエンジンを掛けられる方は多いです。

また、将来の就職や面接について、不安はございませんか。これまでの不合格の経験や、今まで自分が他の人にはあまり言いたくないような過去についても、就職相談をするにより、ガラッと前向きなストーリーに捉え直すことができます。ぜひ、今差し迫って就職の必要がない場合でも、将来にぼんやりと不安があれば、相談してみてください。

【Q.20】学習と息抜きの塩梅、おすすめの休み方などを教えてください。受験において勉強を継続させることが関門のひとつかと思います。その継続のために必要な内の一つは適度な休息だと思うのですが、焦って勉強も休息もどちらにも身が入りきらずストレスが増し勉強に集中もできなくなってしまうまずい状態になってしまいました。もしよければ、適切な心身の整え方や向き合い方についても教えていただきたいです。



[岡田] 私も頭痛が収まらない状態や、体が重くて起きられない状態が続いた時期がありました。極限まで追い込んで精神的にも体力の限界まで勉強しているので無理もないです。私の場合、2年目は、軽いランニング、水泳、筋トレを取り入れたのですが、体が疲れると不思議とリラックスできてよく寝られるようになりました。運動を取り入れることをお勧めしますが、ご自身がストレスを発散できる方法、心からリラックスできる方法であれば何でも構いません。ただ、最終的にはやはり受験勉強に対する不安は勉強でしか解消できないと思いますので、勉強時間と勉強の質をどのようにすれば確保できるかを自問自答し続けることが必要と思います。

[岡本] ご質問の文章からは、学習が手につかず、休憩も中途半端である、悪循環がうかがえます。一つの提案としては、「休息」を意識することなく、頑張っ、何かを一つやり遂げてみてはいかがでしょうか。

たとえば、過去の基礎マスターの実力テスト、短答アクセス、短答答練などを引っ張り出してきて、「このテストを満点とってみせる」と決意し、それに向けたテキストの読み込み、例題集・トレーニングのやり込み等に、一心不乱に取り組んでみてください。「1週間で80時間勉強してみせる」とか。

休息を意識しすぎているようにもお見受けしたので、このようなアドバイスを贈りました。やり切った際の達成感は相当なもので、身体は「自然と」休息を欲してくると思います。

その際の休息こそが、ご自身が望んでいるような休息となる可能性があります。

あと、余計なおせっかいですが、勉強の休息として「スマホを見る」というのは、勉強能率を大きく低下させるので、避けた方が良いと思います。

【Q.21】22 年合格目標の TAC 短答アクセス答練に比べて、23 年合格目標のアクセス答練は、どれくらい更新される予定でしょうか。



〔岡本〕どの科目も、アクセス答練、短答答練、論文答練の問題は、前年目標の各答練の問題からすべて一新され、最新の試験傾向や試験委員動向を反映したものになります。

ですので、安心して、張り切って、2023 年合格目標の各種答練に挑んでください！

【Q.22】22 年目標でしたが 5 月短答がだめで、上級 W チャンス本科生の申し込みを検討しています。再受講割引受講料（～13 日）で申し込んでおき、奨学生選抜試験で良い結果が出た場合に、そちらの割引適用に変更することはできるのでしょうか？



〔事務局回答〕

恐れ入りますが、「割引対象コース」お申込み後に、奨学生選抜試験の割引制度を使用することはできません。予めご了承ください。

（奨学生選抜試験ご注意事項の下記にあたります）

ご 注 意

※奨学生選抜試験割引は、他の割引制度（再受講割引等を含む）との併用は一切できません。ただし、科目免除割引に限り併用が可能です。

※P64 掲載の各本科生受講料から、順位に応じて割引します。早割（超割）キャンペーン期間中は、各キャンペーン受講料から割引します。

※奨学生選抜試験において、複数回の割引対象となった場合でも、いずれか一方のみの割引の適用となります。

※2023 年および 2024 年合格目標の各本科生を受講中の方は受験できません。

※上記「割引対象コース」お申込み後に奨学生選抜試験の割引制度を使用することはできません。予めご了承ください。

【Q.23】フルタイムで働きながら通信講座で学習(2022 合格目標)してきましたが、今回 45%しか得点できませんでした。昨年の 12 月も 45%だった上に、どの科目も 4~5 割しか取れていないため、致命的に学習方法が誤っているのではないかと危機感を感じています。専念で今年 12 月の短答合格、来年 8 月の論文合格を目指すことに切り替えましたが、しっかりと基礎固めから始めるうえで、どのような計画で勉強していくかを相談したいです。現在まで論文対策には全く手をつけていません。校舎へ伺うことが難しいため zoom での質問・相談を考えているのですが、どのように自分の現状を伝えと講師の方に伝わりやすいでしょうか。事前に整理しておいた方が良いことがあれば教えて下さい。



[岡本] 短答式試験が 2 回連続 45%程度の得点率であったということは、どの科目も、学習方法が誤っていると判断せざるをえません。ぜひとも、全科目につき、早急に ZOOM で講師に直接相談することを強くお勧めします。各講師とも、そのような相談には慣れていますので、画面の向こうの講師に向かって、ご自身の状況(これまでの経緯、勉強方法、成績、今後の学習可能時間など)を、決して恥ずかしがらずに、隠さずに、ありのままお話しください。

そうすれば、講師の側から、いろいろと質問してきて、話がトントンと進むはずで。事前に整理できなくても、「これまでの経緯を包み隠さず話す」という気持ちだけ持って、ご相談いただいても大丈夫です。

[岡田(平林加筆)] もし事前に準備される場合には、以下を整理されて臨まれるとスムーズです。

- ・成績(本試験 難易度 A の獲得状況や、正解率60%~、40~60%の正解状況)
- ・苦手意識の有無
- ・勉強方法・主に使用している教材
- ・進捗度(講義終了時期)
- ・直前期の勉強時間(一日、科目別)

また、私(監査論)の場合には、テキストがどのように加工されているのかを見せていただくと、勉強スタイルが掴めてアドバイスがしやすいです。是非すべての科目、講師に相談をして、最初に方向性を間違えないように十分に考えて取り組みましょう。

初学者の方からのご質問

【Q.24】岡本先生、岡田先生、いつも講義ありがとうございます。23 年目標の者です。上級期になり、自分の勉強において、ひたすらに電卓を叩く（計算科目の例題やトレーニング演習）時間より、原価計算基準や監査論含む理論科目のインプットの時間が増えたように思えます。これは当然なのでしょうか。それとも、間違った方法に進んでいるのでしょうか。



〔岡本〕上級期に入ってから、計算科目の学習時間よりも理論科目の学習時間の方が長くなるのは、ごく自然なことです。この時期は、財務会計論の終わりが見え始める一方で、理論科目はこれからがインプットの正念場という時期ですしね。

公認会計士試験では、計算科目（特に財務会計論）でインプットしなければならない量が多いため、TACでは入門期から、財務会計論を重点的に学習していただきました。伝統的にTAC生の計算力が高いのはこのカリキュラムのおかげです。夏に向けたこれからの時期、理論科目の学習を存分にやっていただくために、これまでは、あえて計算科目の学習に集中していただいていたのです。

仮に、現時点で計算力に不安があった場合、理論科目の学習に時間を割きすぎること、計算力がさらに低迷するおそれがあるため、計算力の底上げ、メンテナンスは必須になります。トレーニングとアクセス答練をうまく活用してみてください。詳しくは、校舎や ZOOM で講師に相談してみてください。

〔岡田〕徐々に理論に着手するのは当然のことですが、現在の計算力がどの程度のレベルにあるかによります。計算力が不十分なまま、理論中心の勉強になってしまうとどの科目も中途半端な状況に陥ってしまう可能性が高まります。周囲と比べて計算力はどうでしょうか。答練などで上位レベルでないのであれば、まだまだ計算に時間を割くべきだと考えます。

【Q.25】こんばんは!TAC2023年目標 岡山校で勉強している者です。管理会計論の勉強方法についての質問です。現在、僕は7月末までに、管理会計の計算を固めようと計画を立て、勉強しています。教科書の復習の際には、とにかく理解重視で教科書を見ているのですが、問題集(トレーニング)を解く際にも、理解を求めています。

例えば、工程別総合原価計算の問題を解く際、第1工程直接材料費+加工費、第2工程加工費が所与の場合でも、この前には部門別計算が行われているんだよな、と考えて解きます。トレーニングを解く際は、ここまで考える必要はないですか？



[岡本]非常によく考えて勉強していますね!良いと思いますよ。そのようなことを意識して例題とトレーニングを説いてほしいと、私も常々講義でお伝えしているところです。今後答練期に入った際に、気を付けてほしいことがあります。

TAC 教材でいうところの、例題とトレーニングは「自習用教材」であり、これは時間制約なく解いてもらえばよく、今やっているようなスタンスで論点に対する理解を深めていってもらえればよいです。

他方、もうすぐ、7月半ばからアクセス答練が始まり、その後は短答答練が始まります。これらの答練は、「制限時間内に得点を最大化する力」を養うことが目的であり、本試験に向けた予備実践の機会です。そのため、これらの「答練」では、時間を意識して解答してすることを意識しましょう。

ただし、その場合でも、自習で例題やトレーニングをどこまで深く考えて解いてきたかがモノを言います。自習時と答練時の目的の違いをしっかりと理解して、引き続き頑張ってください!

【Q.26】学習において初歩すぎることで申し訳ないのですが、現在私は計算科目のトレーニングの一講義あたりの課題量を一日で消化できず、講義の消化の進行さえも遅れるばかりです。この場合、トレーニングを完全に消化できなくてもそのまま講義を進めるか、次に続く講義も理解できなくなるため時間が掛かって、課せられたトレーニングは一通り消化させてから次の講義を進めればいいのでしょうか。

また聞き間違いかもしれませんが、トレーニングには触れず、テキストの練習問題が解けたら次に進むというやり方を聞いたことがあります。このやり方なら短期で進めたい人には時間面で周囲に追いつけそうですが、やはり大半の人は理解が足らずに合格の最低限のラインにも届かなくなるのでしょうか。短期合格を目指しており、なるべく計算科目一日一講義とその一講義分のトレーニング消費をしたいのですが、トレーニング量に係る時間が長すぎてこのままでは進みもできないと壁を感じています。基礎ができていないために長くなっているのかもしれませんが、長期を見据え、時間が掛かっても指定されたトレーニングは全てこなしてから次の講義に進むべきでしょうか。序盤も序盤でつまづいてしまい質問するのも恥ずかしい状態ですが、教えていただけると幸いです。



〔岡本〕ご質問で「計算科目一日一講義とその一講義分のトレーニング消費をしたい」とのことですが、さすがにそのペースは速すぎると感じます。TACの基礎マスター期の通常のカリキュラムでも、計算科目は、財務会計論（計算）が週2コマ、管理会計論が週1コマというのが上限であり、それを上回るペースで長期間にわたり講義・学習を進めた場合、消化不良を起こす可能性が高いと思います。学習を早く進めたい事情は様々あると思いますが、公認会計士試験の学習は、基礎を1つ1つ積み上げていかなければ、応用的な内容はすぐに頭から抜けてしまいます。

基本的には、講義⇒復習⇒例題⇒該当範囲のすべてのトレーニング、のサイクルで、その講義の内容をマスターしてから、次の講義を視聴するのが通常のサイクルです。ただし、この学習は、「長期を見据えている」わけではなく、しっかり基礎固めをすれば、2023年の論文合格まで可能と考えます。

序盤も序盤でつまづいているとのことですので、ぜひ講義をしっかり視聴し、そこでの講師の指示どおりに、まずは学習を進めてみましょう。そして、ぜひ、質問を恥ずかしいと思わずに、校舎やZOOMでの質問・相談を

積極的に、頻繁に活用してください。正しい学習方法が身につくまで、毎週でも相談されることをお勧めします。